

2026年5月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	22,268,119	19,810,478	112.4%
国内旅行	4,279,250	4,202,242	101.8%
訪日旅行	1,807,910	1,784,505	101.3%
合計	28,355,280	25,797,227	109.9%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	120.7%
オセアニア・南太平洋	150.5%
ハワイ・ミクロネシア	91.6%
欧州・中近東・アフリカ	109.1%
北米・中南米	117.3%

商品別	前年同月比
手配旅行	113.7%
企画旅行	112.2%

チャネル別	前年同月比
店舗	111.9%
オンライン	114.5%
法人	113.3%

■ 海外旅行

5月8日より「SUPER SUMMER SALE! 2026」を開催。燃油サーチャージが大幅に値上がりする環境のなか、夏休みや秋のシルバーウィークのご旅行を検討されている方に向けて、LCCを利用したお手頃な商品から高付加価値商品など多彩なラインナップを展開し、より一層の旅の需要喚起に努めました。取扱高においては、オセアニア・南太平洋やアジア方面が好調に推移しました。現地が過ごしやすい季節であることに加えて、燃油高の影響を受けにくいLCC利用商品の需要の高まりを獲得し、取扱高の伸長に寄与しました。また、欧州方面は中東情勢や燃油高の影響を受けているものの、「安心感」や「滞在プランの内容」を重視する需要を獲得しました。ビジネスクラスや添乗員付きツアーが人気を集め、定番のイタリア・フランスが牽引して、前年同月比118%と高い伸びをみせました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比112.4%の222億6,811万円となりました。

■ 国内旅行

海外旅行と同日に開催した「SUPER SUMMER SALE! 2026」では、最大20%OFFのウルトラクーポンが奏功し、ダイナミックパッケージを中心に予約が好調に推移しました。取扱高では、日並びに恵まれたゴールデンウィークの需要を捉えた沖縄が前年同期比125.9%と牽引しました。またバスツアーでは、かねてより進めてきた早期予約の促進や直前の駆け込み需要を確実に捉えたことで、全体で同119.7%と高い伸びを記録しました。なかでも「立山黒部アルペンルート・雪の大谷ウォーク」など季節性の高い宿泊バスツアーが引き続き堅調で、東海方面が同127.3%と好調に推移しました。その一方で、前年の特需からの反動減により関西方面は同54.3%にとどまりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比101.8%の42億7,925万円となりました。

■ 訪日旅行

HIS単体の訪日旅行事業は、前年同月比114.5%と大きく伸長しました。団体旅行では北米市場の受客が単月の過去最多記録を更新して全体を牽引したほか、アジアの大型インセンティブ需要を取り込みました。欧州市場では中東情勢の影響を受けたものの、VIP案件等の高付加価値商材の受客手配でカバーしました。個人旅行においては、広島日帰りツアーの需要獲得や中部エリアでの単月過去最高売上を更新など順調に拡大しました。ジャパンホリデートラベルにおいては、中国市場を取り巻く外部環境の変化や航空便の減便などの影響を受けつつも、注力する台湾からの団体受客が大幅に伸長しました。グループ全体で各エリアや注力市場における積極的な需要獲得が、全体の取扱高を押し上げました。

以上の結果、訪日旅行事業全体の取扱高は前年同月比101.3%の18億791万円となりました。

2026年5月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比109.9%の283億5,528万円となりました。

2026年5月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	15,465,094	14,264,753	108.4%
アウトバウンド	9,499,555	10,453,480	90.9%
合 計	24,964,649	24,718,234	101.0%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

中東地域の緊迫化に伴う情勢不安を背景とした予約キャンセルの動きとともに、一部空域制限による中東乗り継ぎ便を利用したツアーの催行中止が、中近東方面の受客取扱高の減少に直結しました。一方、欧州方面では多様な市場からの受客が寄与し、前年同月比 109.9%と堅調に推移しました。イギリスでは、アジア地域の中でも上海・北京等の中国からの受客が底堅く、同 122.4%となりました。ドイツでは、3年に1度開催される国際見本市に参画する関連企業の宿泊や送迎等の手配を取り込みました。これに加え、この時期にしか楽しめない季節限定コンテンツであるチューリップ観賞ツアーの需要を捉えたベネルクス・ドイツ周遊旅行の受注も好調に推移し、同 132.7%と大きく伸長しました。燃油サーチャージの値上げが進むなか、その影響が比較的少ない渡航先として日本からの受客が堅調な韓国では、3大世界文化遺産巡りなど、定番コースが好調を維持し、同 126.0%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 108.4%の 154 億 6,509 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

アメリカでは、日系企業の出張手配に加え、日本行きの学生団体旅行 (Japan Trek) の手配が大幅に増加し、前年同月比 173.8%となりました。フランスでは、国際会議の開催に伴う政府関係機関の移動手配需要が増加したほか、最低 9 泊から最大 17 泊といった滞在期間が比較的長い日本への長期旅行需要を捉え、同 163.1%となりました。ハワイでは、日本でのスポーツ観戦や温泉を満喫するツアーが人気を博し、同 122.9%となりました。送客取扱高を大きく牽引するカナダでは、中東情勢による減便や欧州系航空会社の燃油サーチャージ値上げに伴う予約数の減少といった影響を一部受けたものの、カリブ海へのオールインクルーシブパッケージツアーが堅調に推移したことで、同 103.5%と前年実績を上回りました。一方、以前に送客取扱高の約 1 割を占めていたトルコによるローカル向けアウトバウンド事業からの撤退により、同 2.5%に留まりました。(この影響は 2026 年 8 月まで継続する見込みです。)

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 90.9%の 94 億 9,955 万円となりました。

2026 年 5 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 101.0%の 249 億 6,464 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R 室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177